

一般社団法人 日本環境教育学会

第29回年次大会（東京）

「環境教育の根本に立ち返る：いのち、環境、人間」

# 大会案内・プログラム

2018年8月24日（金）～8月26日（日）

主催：一般社団法人 日本環境教育学会

会場：東京学芸大学

## 第29回年次大会 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月24日 (金)					各種委員会	理事会			社員総会			
	共催企画(※)						若手会員の集い			論文書き方セミナー		
8月25日 (土)	大会	口頭発表		昼食	口頭発表	大会企画 公開シンポジウム(※)			会員懇談会		懇親会	
	大会	ポスター発表										
	受付	教員セミナー(※)										
	受付	環境教育メッセ										
8月26日 (日)	大会	口頭発表		昼食	口頭発表	常設・特設研究会			自主課題研究			
	大会	ポスター発表										
	受付	国際交流会										
	受付	環境教育メッセ										

※共催企画、教員セミナー、公開シンポジウムは、別途資料代が必要になりますが大会参加者以外の方も参加可能です。

### <開催概要>

- 期間 2018年8月24日(金)～8月26日(日)  
※エクスカージョンは8月27日(月)
- 会場 東京学芸大学 北講義棟(N棟)、芸術館、第2むさしのホール
- 主催 一般社団法人 日本環境教育学会(第29回年次大会実行委員会)
- 共催 国立大学法人東京学芸大学・  
公益社団法人日本環境教育フォーラム(共催企画のみ)・  
ユネスコスクール・ネットワーク(教員セミナーのみ)
- 後援 文部科学省・環境省・経済産業省・国土交通省・農林水産省・  
小金井市教育委員会・国分寺市教育委員会・小平市教育委員会・  
東京都教育委員会(教員セミナーのみ)
- 一般社団法人 日本環境教育学会第29回年次大会 実行委員会事務局  
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1  
東京学芸大学 環境教育研究センター 事務室  
電話:042-329-7665 FAX:042-329-7669 E-mail: gakuhei2018@jsfee.jp

一般社団法人日本環境教育学会ウェブサイト  
<http://www.jsfee.jp/>

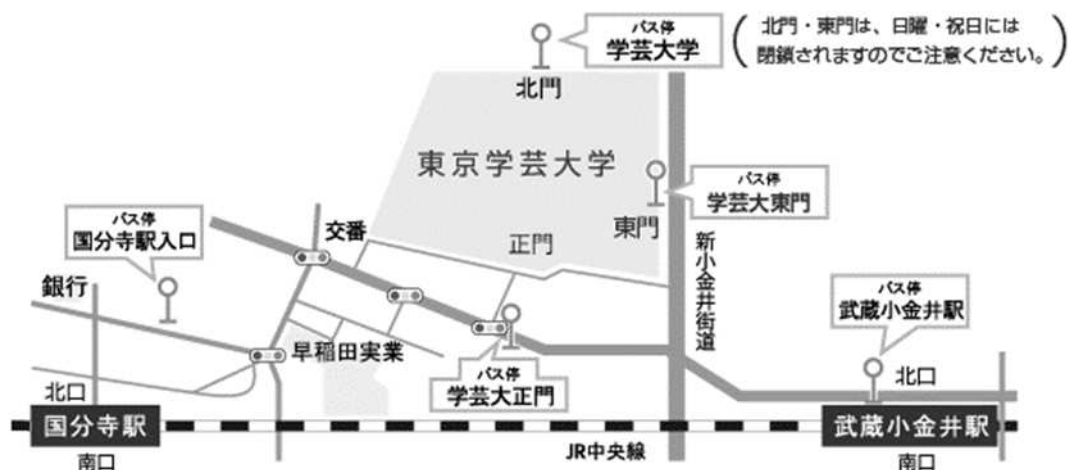
一般社団法人日本環境教育学会第29回年次大会ウェブサイト  
<http://www.jsfee.jp/members/meeting/325>

<東京学芸大学へのアクセス>

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

詳細は以下のウェブサイトを参照してください。

<http://www.u-gakugei.ac.jp/access/>



(東京学芸大学ウェブサイトより引用)

JR 武蔵小金井駅・北口より

【京王バス】

〔5番バス停〕「小平団地」行に乗車、約10分。「学芸大正門」下車

〔6番バス停〕「中大循環」に乗車、約10分。「学芸大東門」下車

※8月26日(日)は東門が閉鎖されていますので、ご注意ください。

JR 国分寺駅より

【銀河鉄道バス】

「国分寺駅入口」より「小平駅南口」行に乗車、約10分「学芸大学」下車

※8月26日(日)は北門が閉鎖されていますので、ご注意ください。

【徒歩】

約20～25分

(JR国分寺駅北口 → 早稲田実業学校 → 連雀通り／小金井市保健センター前)

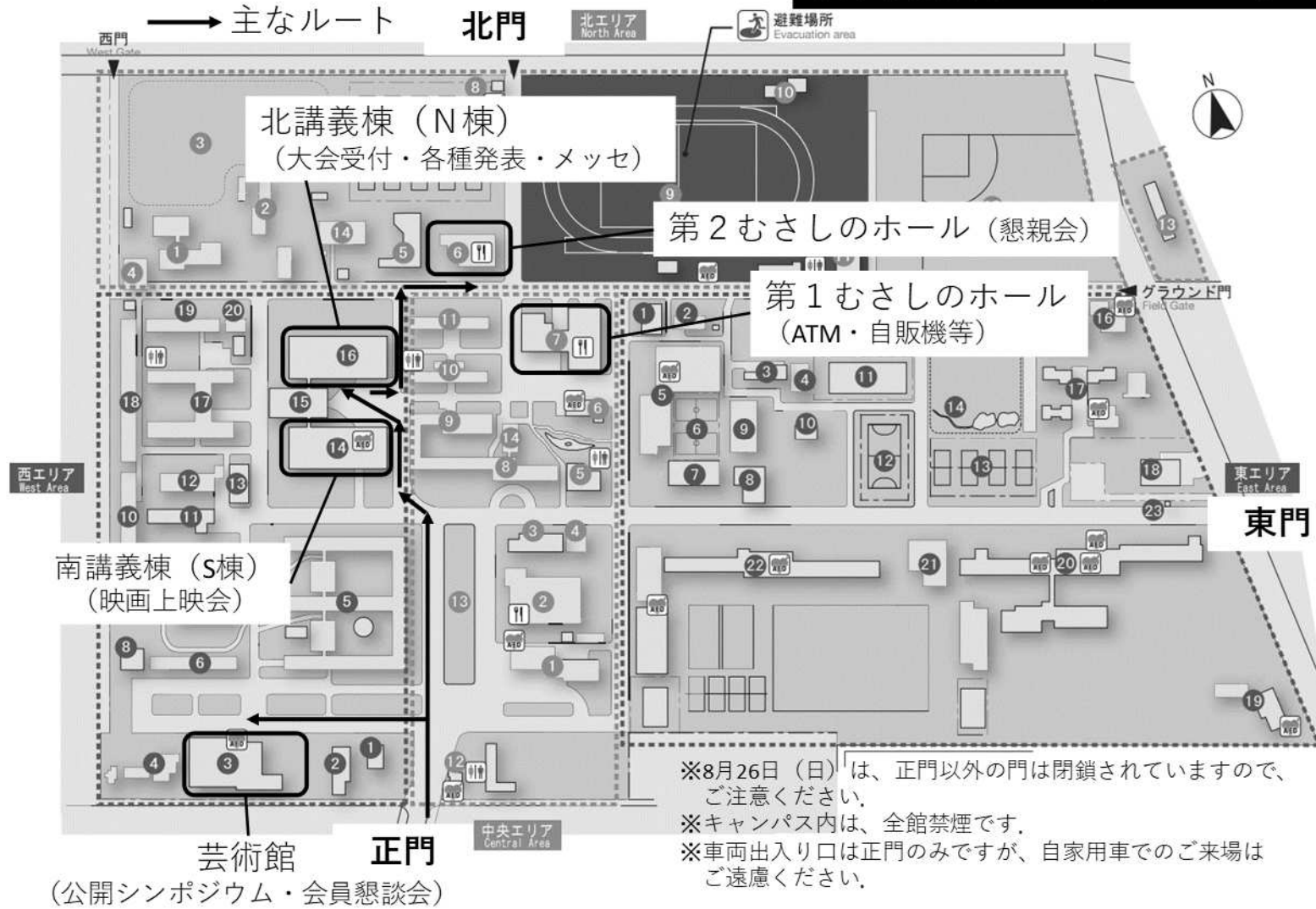
西武新宿線小平駅南口より

【銀河鉄道バス】

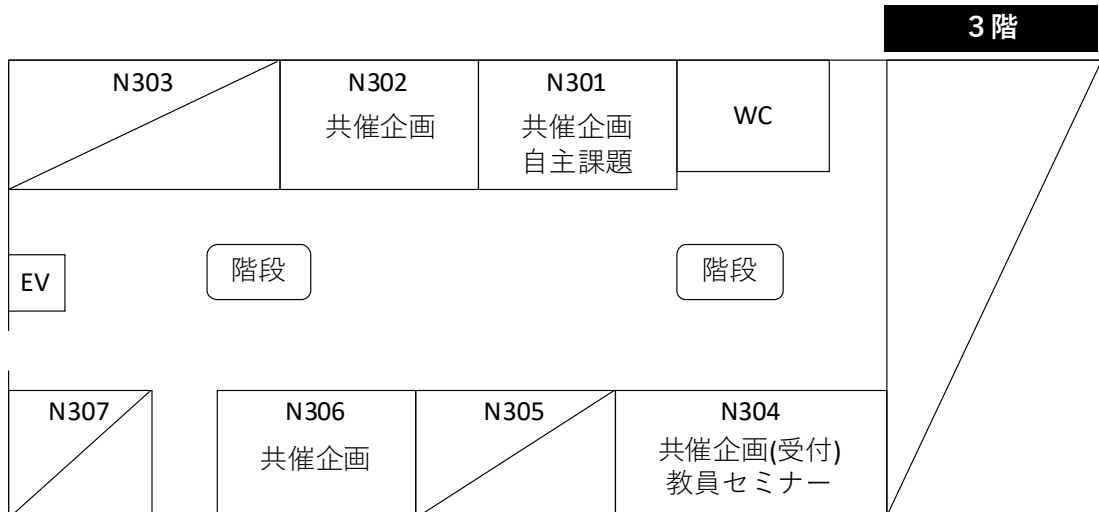
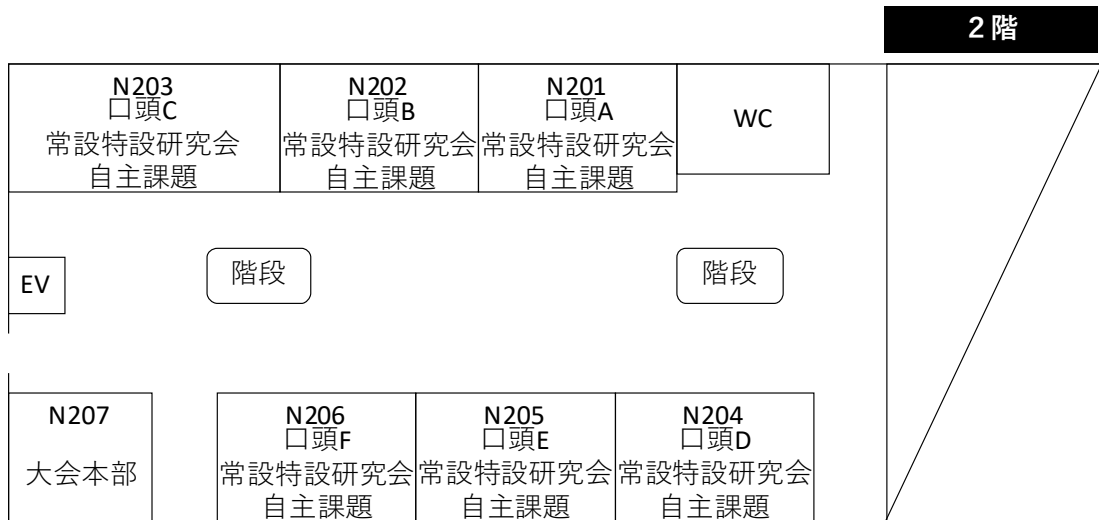
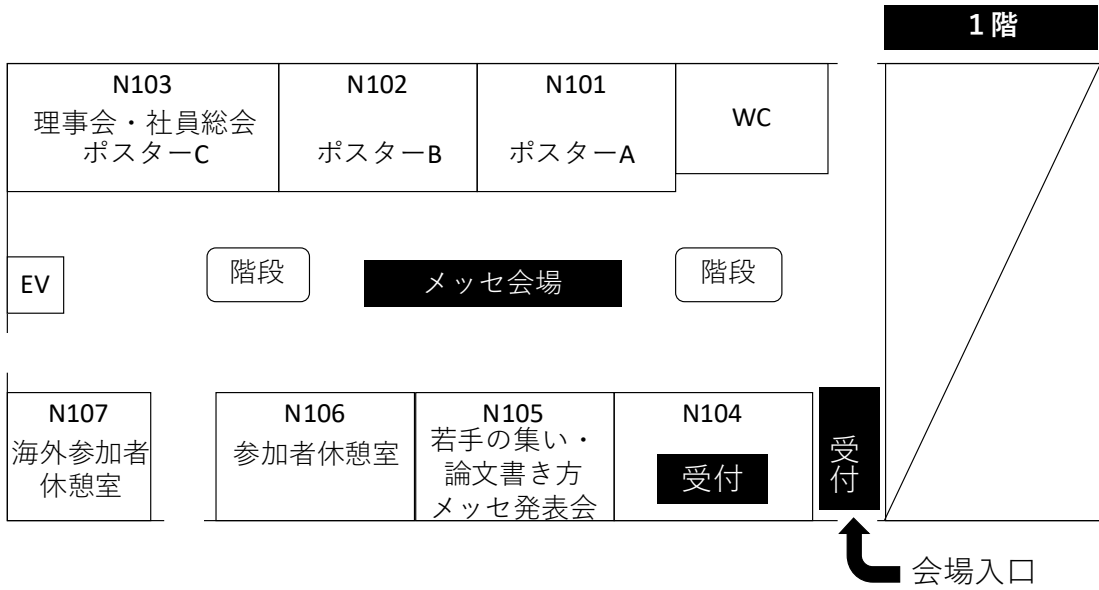
「国分寺駅入口」行に乗車、約15分「学芸大学」下車

※8月26日(日)は北門が閉鎖されていますので、ご注意ください。

# 東京学芸大学 キャンパスマップ



## 会場案内：北講義棟（N棟）



<会場のご案内（教室）>

校舎	階	教室	8月24日（金）		8月25日（土）		8月26日（日）				
			AM	PM	AM 9:00-12:00	PM 12:45-13:45	AM 9:00-12:00	PM 13:00-14:00	PM 14:00-16:00	PM 16:10-18:10	
北講義棟・N棟	1	ホール	環境教育メッセ（展示）								
		101	ポスター発表								
		102	ポスター発表								
		103	理事会 社員総会	ポスター発表							
		104	大会受付 8月25日AMは、ホールにも受付を設置予定								
		105	若手の集い 論文セミナー	環境教育メッセ発表会場							
		106	学会参加者休憩室								
		107	海外参加者休憩室								
	2	201	各種委員会	□頭A	□頭A	□頭A	□頭A	常設特設 研究会	自主課題 ①		
		202	各種委員会	□頭B	□頭B	□頭B	□頭B	常設特設 研究会	自主課題 ②		
		203	各種委員会	□頭C	□頭C	□頭C		常設特設 研究会	自主課題 ③		
		204	各種委員会	□頭D	□頭D	□頭D	□頭D	常設特設 研究会	自主課題 ④		
		205	各種委員会	□頭E	□頭E	□頭E	□頭E	常設特設 研究会	自主課題 ⑤		
		206		□頭F	□頭F	英語 報告	国際交流会 12:00-14:00	常設特設 研究会 (国際)	自主課題 ⑥		
		207	大会本部								
	3	301	共催企画						自主課題 ⑦		
		302	共催企画								
		304	共催企画※（受付） 10:00～15:00	教員セミナー※ 9:30～13:30							
		306	共催企画								

※ 共催企画、教員セミナーにご参加の方は、各会場にて開始時間前までに受付を行ってください。

<参加者の皆様へ>

1. 大会全般について

- 大会受付は、8月25日（土）～26日（日）、東京学芸大学北講義棟（N棟）104教室に設置いたします。なお、25日（土）の午前中は、N棟1階ホールにも受付を設置する予定です。参加者は必ずここで受付をしてください。
- 会場内では、大会受付でお渡しする参加票（名札）を必ず首から提げるようにしてください。（一般入場者の方と名札によって判別いたします。）
- 大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- 東京学芸大学は構内全面禁煙となっています。構内に喫煙スペースはございませんので、あらかじめご了承ください。

2. 食事について

- 8月25日（土）～26日（日）は、東京学芸大学の食堂が営業していませんので、昼食は、大学周辺のコンビニエンスストアや飲食店等をご利用ください。

3. 会場について

- 自家用車でのご来場は原則としてできません。最寄り駅から徒歩もしくはバスをご利用ください。（詳細は2頁をご覧ください。）
- 会員の休憩室を北講義棟（N棟）1階106および107教室に設置します。クロークはございませんので、こちらを荷物置場としてご自由にご利用ください。ただし貴重品等は各自が保管し、絶対に休憩室内に置かないようにしてください。

4. その他

- ATMは、第1むさしのホール（食堂）に「ゆうちょ銀行」（土曜日 9:00～17:00／日曜日取扱いなし）があります。その他、キャンパスグラウンド門（3頁のキャンパスマップ参照）を出て道路向かいにローソンがあります。

## 口頭発表について

日時：8月25日（土）9:00～12:00、12:45～13:45、8月26日（日）9:00～12:00、13:00～14:00

会場（教室）：北講義棟（N棟）2階201～206教室

### 1. 発表時間

1件15分（発表12分、質疑3分）で進行いたします。総合討論（10分）後の休憩（5分）では、座長交代やコンピュータへのPowerPointデータ取り込み等、円滑な運営にご協力ください。発表中の合図は次の通りです。

第1鈴：10分

第2鈴：12分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください）

第3鈴：15分（質疑終了です。直ちに次の発表者と交代してください）

- ・ 発表者は、一つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機しててください。
- ・ 発表者は、はじめに表題と発表者名をご紹介ください。
- ・ 質問者は、はじめに氏名と所属を述べてください。
- ・ 発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください。
- ・ 総合討論では、質問や討論が特定の発表者の発表内容に偏らないよう配慮してください。

### 2. 発表機材について

- ・ 各教室に設置済みのPCを使用してください。PowerPoint（Windows PC）が使用できます。
- ・ PCの操作は発表者の責任で行ってください。持ちこみPCを利用した発表はできません。
- ・ PowerPointのデータは、USBメモリで当日ご持参ください。発表直前のデータ操作はトラブルの原因になりますので、ご自身の発表があるセッションの開始前（口頭発表開始時刻前、もしくは前のセッションの総合討論の時間中）に、必ず会場備え付けのPCのデスクトップ上にある各セッションのフォルダにコピーしておいてください。

#### ※ ウイルスチェックについて（重要）

USBメモリを媒介にしたウイルスの被害防止のため、会場に設置してあるPCには大変厳しいウイルスチェックソフトがインストールされています。もし持参したUSBメモリに、何らかのウイルスが入っている場合、会場のPCにファイルを移動することはできません。その場合、研究発表要旨のみで発表いただくことになります。必ず事前に、各自で最新バージョンのウイルス対策ソフトで、持込みをするUSBメモリをチェックし、安全を確認してからご持参ください。USBメモリ内には、発表用のファイル以外のものは入れないようご注意ください。なお、PCにファイルを移動するタイミングは、セッション開始前もしくは総合討論と次のセッションの間の時間となりますので、協力して急ぎ行ってください。

#### ※ 座長のみなさまへ

座長（司会者）はセッション全体を担当していただきます。複数の関連発表とその後の総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。また、討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

#### ※ 英語報告部会について

第29回大会では、8月26日（9:00～）口頭発表・発表要旨・質疑応答・総合討論のすべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します（22頁参照）。海外からの参加者だけでなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加いただき、盛り上げていただければ幸いです。



## ポスター発表について

日時：8月25日（土）9：00～13：45、8月26日（日）9：00～15：00  
（8月25日の12：00～12：45、8月26日の12：00～13：00はコアタイム）  
会場（教室）：北講義棟（N棟）1階101, 102, 103教室

- ・ ポスターの展示スペースは、1件につきA0サイズ1枚です。（縦：1189mm×横：841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可）
- ・ 発表者は、25日（土）9：00までに所定の位置に各自掲示し、26（日）15：00までに取り外して撤収を完了して下さい（撤収されていないポスターについては、実行委員会の方で処分させていただきます）。
- ・ この日程で対応いただけない場合は、あらかじめ大会事務局までご相談ください。
- ・ 発表者は質疑応答のため、25日か26日のどちらか1日のコアタイムには、ポスターの前で待機してください。両日ともご対応いただけると、より活発な情報交換がなされます。コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。
- ・ ポスター貼り付け用のテープ（や画びょう）は、大会実行委員会で準備いたしますので、必ず指定のものをご使用ください。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・ 撤収時間を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

## 自主課題研究

日時：8月26日（日）16:10～18:10  
会場（教室）：北講義棟（N棟）2階201, 202, 203, 204, 205, 206教室、3階301教室

- (1)水・食品ロス・食糧自給・RRRDRから模索する、SDGsプログラム<N201教室>  
○海老原誠治（三信化工(株)）・山田英夫（食品ロス・リボンセンター）・藤本勇二（武庫川女子大学）
- (2)アスベストによる環境リスクを知り、効果的なリスクコミュニケーションを考える<N202教室>  
○榊原洋子（愛知教育大学教育学部）・永倉冬史（中皮腫・じん肺・アスベストセンター）・外山尚樹（東京労働安全衛生センター）・中地重晴（熊本学園大学）・南慎二郎（立命館大学）・飯田勝泰（東京労働安全衛生センター）・斎藤紀代美（浦和青年自然の家跡地利用を考える会）
- (3)観光の教育力と環境教育(5)<N203教室>  
○大島順子（国立大学法人琉球大学国際地域創造学部）
- (4)AIおよびwebを活用した国際連携による市民科学の実践～意義と課題～<N204教室>  
○小堀洋美（東京都市大学環境学部）・小河原孝生（NPO 法人生態教育センター）・戸金大（（一社）生物多様性アカデミー）・桜井良（立命館大学政策科学部）
- (5)社会対話「環境カフェ」の実践<N205教室>  
○多田満（国立研究開発法人国立環境研究所）・田中迅（九州大学）
- (6)環境教育をアクティブ・ラーニングにする協同学習の技法<N206教室>  
○佐藤敬一（東京農工大学農学部）
- (7)質的研究法を学ぶ 5 <N301教室>  
○高橋宏之（千葉市動物公園）・河村幸子（東京農工大学大学院）・秦範子（都留文科大学・非）・長濱和代（東京大学大学院）・浜泰一（東京大学）

※自主課題研究の会場設営および進行等の運営はすべて企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。終了時間は厳守をお願いします。

## <大会参加者向けイベント>

【若手会員の集い】8月24日（金）16：00～17：50／北講義棟（N等）1階105教室

【論文の書き方セミナー】8月24日（金）18：00～20：00／北講義棟（N等）1階105教室

【会員懇談会】8月25日（土）16：30～17：30／芸術館（学芸の森ホール）

【懇親会】8月25日（土）（受付17：30～）18：00～20：00／第2むさしのホール

※会員諸氏からのお酒等の差し入れを大歓迎いたします。会場まで直接ご持参ください。また、できるだけ、箸・コップ・皿をお持ちください。少しでも地球に負担をかけない懇親会にしましょう。

### 【常設・特設研究会】

8月26日（日）14：00～16：00／北講義棟（N棟）2階201, 202, 203, 204, 205, 206教室

- 環境教育プログラムの評価研究会<N201教室>
- 「SDGsの教育」研究会<N202教室>
- 「公害教育」研究会（地域環境教育研究会）<N203教室>
- 学校環境教育研究会<N204教室>
- 「3.11以後の福島を考える」研究会（地域環境教育研究会）<N205教室>
- 環境教育国際共同研究会<N206教室>

### 【国際交流会】

8月26日（日）12:00～14:00／北講義棟（N棟）2階206教室

韓国、台湾、北米、オーストラリアの各環境教育学会の最近の取り組みを紹介すると共に、環境教育研究のネットワークの強化と国際共同教育実践の可能性を探るための国際交流ワークショップを行います。簡単な逐次通訳・サポートがありますので、会員の皆さんはふるってご参加ください。また、昼食は持ち寄り、お茶やお菓子は準備いたします。（本学会国際交流委員会と財キープ協会環境教育事業部が共同実施）

### 【エクスカーション】

8月27日（月）以下の2つのツアーを予定しています。

- ・「源流親子留学」見学ツアー（山梨県小菅小学校）山村での学びと暮らしの視点から
- ・あつまれ若手会員！若手会員のための環境教育ツアー&交流会

※大会ウェブサイトにて情報を掲載していますので、申し込み方法の詳細等ご確認ください。

---

## <一般公開イベント> ※会員以外の方も参加できます。

### 【大会企画・公開シンポジウム】

公開シンポジウムテーマ「環境教育の根本に立ち返る：いのち、環境、人間」

持続不可能な社会を持続させる私たちの個人的・社会的心性と、高度に人工化・システム化された社会と、そこで営まれる私たちの日常生活を覆う堅牢なベール。その下にある本当に大切なもの・こと、すなわち環境教育の根本を尋ねます。

日時：2018年8月25日（土）14：00～16：30／会場：東京学芸大学 芸術館（学芸の森ホール）

I部 講演「日々の生活から環境教育の根本を尋ねる」

スピーカー：織瀬（はなぶさ）あや氏（映画監督）

1974年東京生まれ。自由学園卒業。2010年に上関原子力発電所に反対し続ける島民の暮らしを映し撮った映画『祝の島（ほうりのしま）』を初監督。シチリア環境映像祭で最優秀賞受賞。大阪貝塚市の北出精肉店

の家族の暮らしを描いた二作目『ある精肉店のはなし』（2013年）は平成26年度文化庁映画賞文化記録映画部門大賞。現在は、日本の移り行く時代の中で消えかかっている人々の営みを映像に記録し続けている。

## II部 パネルディスカッション

パネリスト：瀬瀬あや氏（映画監督）／高橋和也氏（自由学園学園長）／岡田仁氏（（公財）基督教イースト・エイジャ・ミッション富坂キリスト教センター総主事）／コーディネーター：原子栄一郎（東京学芸大学教員）

### 瀬瀬あや監督映画作品上映会のご案内

日時：2018年8月27日（月）10時から15時15分まで

会場：東京学芸大学南講義棟（S棟）S410 ※チラシに記載されたW110教室からS410教室に変更となりました。

プログラム：

午前の部	10：00～12：00	『祝の島』（2010年／日本／105分）
	12：00～12：15	『土と育つ子どもたち』（2018年／日本／ダイジェスト12分）
午後の部	13：00～15：00	『ある精肉店のはなし』（2013年／日本／108分）
	15：00～15：15	『土と育つ子どもたち』（2018年／日本／ダイジェスト12分）

入場料：各部1,000円

【共催企画】※大会とは別に申込と参加費が必要です。

8月24日（金）10：00～15：00／北講義棟（N棟）N304教室

教室で使えるアクティブ・ラーニングワークショップ「アクティブ・ラーニングに魂（たましい）と技（わざ）を吹き込むー環境教育で育まれてきた学習者中心の場づくりー」。学校教育の流れの中に環境教育のエッセンスを織り込みつつ、子どもたちの個性と主体性を尊重したアクティブな授業を展開するためのヒントを探ります。参加費5,000円。日本環境教育フォーラム（JEEF）のウェブサイト（<http://www.jeef.or.jp/2018/06/21841/>）から事前の申込が必要です。

【教員セミナー】※大会とは別に申込と資料代が必要です。

8月25日（土）9：00～13：30／北講義棟（N棟）N304教室

「持続可能な開発目標（SDGs）を教室に！」をテーマに、小玉敏也氏（麻布大学教授）からの話題提供、小中学生によるSDGsカードゲームの実演、本学会の学校環境教育プロジェクトが作成中の「環境学習のラーニング・デザイン」の実践などを行います。資料代1,000円。申込はメールでteacher2018@jsfee.jpまで「第10回環境教育教員セミナー参加申し込み」とタイトルに明記しお名前とご所属（学校名等）をお送りください。なお、定員に空きがあれば当日参加も受け付けます。

【環境教育メッセ】8月25・26日（土・日）9：00～16：00／北講義棟（N棟）1階ホール

一般公開プログラムとして、大会期間中メッセ会場にて「環境教育メッセ（環境教育見本市）」を開催します。環境教育に関する商品や資料の提示、販売のほか、各団体・企業の取り組みを紹介していただきます。

出展団体（申込順）：一般社団法人農山漁村文化協会／株式会社三信化工／森谷公房／東京学芸大学附属小金井中学校／東京都環境公社／相馬クロニクル／立教大学ESD研究所／NPO法人グッド／株式会社ニホン・ミック／包み屋／公益財団法人トトロふるさと基金／福島子ども保養inあきる野／東京学芸大学環境教育研究センター／損保ジャパン日本興亜環境財団／日本コカ・コーラ株式会社／多磨全生園人権の森／スターバックスコーヒージャパン株式会社

【資料配布スペース】

大会期間中、会員諸氏が持ち込まれた印刷物やチラシ等の配布を目的としたテーブルを、北講義棟（N棟）1階ホールに設置いたします。参加者への配布を目的として、環境教育関連資料等を持ち込まれた方は、こちらのテーブルをご利用ください。なお残部は、8月26日の15：00までに撤収を完了してください。この時刻を過ぎて残っている資料は、実行委員会にて処分いたします。なお、事前送付の受付や保管、郵送等による返却は一切行いませんので、ご了承ください。

口頭発表プログラム ※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ、氏名を掲載しています。  
8月25日（土）9:00～9:55

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
N201 A	ESD1	[25A01]田開寛太郎 在住外国人による観光まちづくりの現状と課題	[25A02]白鳥円啓 市民主体の防潮林づくりを通じた学び場づくりとコミュニティづくり ～気仙沼市本吉町前浜地区・新宿区戸山地区・学生団体三陸つばぎとともに～	[25A03]高橋敬子 日本における気候変動教育能力開発プログラムの開発に向けて-日独共同企画ドイツの気候変動能力開発プログラム体験ワークショップの結果より-	総合討論
N202 B	大学	[25B01]三島らすな 自然体験イベントのスタッフを務めた体験が学生にとって持つ意味について	[25B02]神村佑 社会教育施設における大学生による環境教育実践が地域で果たす役割	総合討論	
N203 C	食育 1	[25C01]西村和代 東京都公立小学校における食育菜園活動の実践	[25C02]草郷亜実 学校給食センターにおける食育の課題と可能性	[25C03]海老原誠治 学校給食において、防災備蓄食糧を活用した食品ロス対策プログラムの実践 - 意識と行動変容のトリガーとなる因子の模索 -	総合討論
N204 D	地球 環境	[25D01]堀孝弘 ペットボトルリサイクルの諸問題に対するリデュース意識の普及について。京都市内5大学、8クラスでの経験から	[25D02]阿部健一 KLaSiCa：地球研が取り組む環境教育	[25D03]榊原洋子 偏光板を使ったアスベスト簡易判別キットによる環境リスク認識効果について	総合討論
N205 E	国際 1	[25E01]佐藤秀樹 バングラデシュ・シュンドルボン (The Sundarbans) におけるコミュニティベース型エコツーリズム開発の実践報告	[25E02]神前佳毅 植樹教育と生涯学習に基づく森林保全のための教育に関する研究 -ブータン、フィンランド等における実地体験学習を中心として-	[25E03]長濱和代 参加型森林管理の資源利用管理と限界ーインドヒマラヤにおける森林パンチャーヤトの事例からー	総合討論
N206 F	緑地	[25F01]小松裕幸 都心の建物緑地を活用した環境教育の実践	[25F02]甲野毅 市民による緑地の合意形成過程に関する研究・3	[25F03]遠藤秀平 都市における神社境内緑地の機能と周辺地域との関わり	総合討論

8月25日(土) 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
N201 A	ESD2	[25A04]岩本泰 フェアトレードタウンを鍵概念としたESDの検討-神奈川県逗子市を事例として	[25A05]萩原豪 地域資源を活用したイベント開催によるESD実践と可能性	総合討論	
N202 B	理論	[25B04]野田恵 原<環境教育>と地域づくりをつなぐ風土概念の批判的検討	[25B05]天野雅夫 環境教育の内容と対象についての一考察	[25B06]小野瀬剛志 批判的環境教育における社会構造の問題(2)一資本主義の前提条件としての人間と自然の分離と、私的労働一	総合討論
N203 C	食育 2	[25C04]押井那歩 食の安全性を中核とする小学校社会科「食環境学習」-フードシステム理論を手がかりとして-	[25C05]溝田浩二 東濃地域の森林文化・食文化にまなぶ環境教育(1)クロスズメバチを採り、育て、味わう	[25C06]高橋麻衣子 東濃地域の森林文化・食文化にまなぶ環境教育(2)森の恵みと保育をつなげる	総合討論
N204 D	自然	[25D04]日高翼 理科を学ぶ意義・有用性を実感させる指導に関する研究-教員養成課程における科学絵本・紙芝居制作を通して-	[25D05]倉本宣 黒川農場自然生態園におけるサイン設置工事と工事にかかわった学生の環境学習	[25D06]浜泰一 青木ヶ原樹海エコツアーの評価とエコツアーガイドの臨機応変的対応	総合討論
N205 E	国際 2	[25E04]高野孝子 ミクロネシア連邦ヤップ島での環境保全と教育を通じた生活改善プロジェクト	[25E05]宮川皓子 カンボジア王国・王立中学校教員養成校(RTTC)における環境教育プログラムの開発と実施	[25E06]齊藤千映美 動物園を通じて行うマダガスカルESD推進の取り組み	総合討論
N206 F	農	[25F04]長谷川絢子 学生援農隊による農業振興②~常葉大学学生援農隊の活動事例~	[25F05]豊田正明 地域連携活動による農作物収穫体験と商品開発を通じたESD実践	[25F06]森谷昭一 農林業講座の体系化のための知識論	総合討論

8月25日(土) 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
N201 A	ESD3	[25A07]田村和之 鳴門教育大学における学生の環境教育/ESDの認識について	[25A08]元木理寿 教材としての景観写真の考え方-地理教育からESDへの展開の可能性	[25A09]二ノ宮リムさち 社会-生態システムと学習者の持続可能性とレジリアンスを育てる大学のESD	総合討論
N202 B	小学校1	[25B07]小堂十 ユネスコスクール西田のホールスクールアプローチ2年間の歩み~国際理解教育とグローバル人材育成への取組から~	[25B08]立花禎唯 小学校3年生における食文化教育の実践-水文化教育の構想と実践(その16)-	[25B09]藤倉まなみ 朝日新聞環境教育プロジェクト「地球教室」による小学校における環境教育	総合討論
N203 C	動物	[25C07]下山田隆 故郷の干潟・干拓地・森林で観察される鳥類の多様性	[25C08]河村幸子 子ども動物園における環境教育カリキュラムの研究(1)	[25C09]本田裕子 兵庫県豊岡市におけるコウノトリをテーマにした「ふるさと教育」の実施状況について-2017年度取組から	総合討論
N204 D	生活	[25D07]山口雪子 環境教育におけるユニバーサルデザインについての研究(4)	[25D08]中川僚子 家庭における継続的環境学習のための媒体と家族の生きる力との関係	[25D09]三谷高史 住教育・住環境教育と環境教育	総合討論
N205 E	国際3	[25E07]許容瑜 台湾の小中学校における環境教育の事態とその類型	[25E08]山田一裕 中国山西省太原市内の小学校における水の学習の実践と日中比較	総合討論	
N206 F	協働	[25F07]藤井徳子 大学・自治体・NPOの協働による自然保育プログラム実践報告	[25F08]東照晃 高校ボランティア部が参画、地域の里山保全活動-ミツバチでつながる活動ネットワーク	[25F09]川北裕之 高校生が市民・大学生と連携して行う「国府台フジバカマの里」自然再生プロジェクト	総合討論

8月25日(土) 12:45~13:45

会場	テーマ	12:45~	13:00~	13:15~	13:30~
N201 A	ESD4	[25A10]和泉良司 全教科等で取り組む ESD のカリキュラム デザイン~「持続可能 性の教育」の構築を目 指して~	[25A11]阿部治 自治体における地域 創生施策と ESD の関 係に関する研究(その 1) -ESD の現状と規 定要因の分析	[25A12]中口毅博 自治体における地域 創生施策と ESD の関 係に関する研究(その 2) -地域創生施策の 現状と促進要因の分 析	総合討論
N202 B	小学 校2	[25B10]高島あずさ 小学校の総合学習に おけるライフスタイル 変革のための効果 的な環境教育プログ ラムの検討	[25B11]飯沼慶一 成城小学校の Nature- Study(自然科)の歴史 的意義	[25B12]中村俊哉 「自由研究」における 環境教育に関する内 容調査 -静岡県のリ 科に焦点を当てて-	総合討論
N203 C	植物	[25C10]三島孔明 大学生の外来植物に 関する知識状況およ び情報普及の検討	[25C11]小堀洋美 情報ツールを用いた 多摩川の外来植物の 市民科学プロジェクト の開発と教育実践	[25C12]加藤美由紀 校内の植生調査の教 材化について - 外来 生物を考える教材を 目的として -	総合討論
N204 D	倫理	[25D10]杉浦公昭 憲法改悪などの「戦争 する国造り」と対決す る辺野古の米軍新基 地建設への非暴力抵 抗運動による主権者 の学習	[25D11]新田和宏 環境教育の原点から 改めて問い直す - 環 境教育における 1980 年代という「原点分 岐」 -	[25D12]渡辺理和 持続可能性の教育に おける環境倫理観の 涵養についての予備 的考察	総合討論
N205 E	高校	[25E10]井上真理子 高校の農業教育にお ける森林・林業と環境 の位置づけ - 「学習指 導要領」をもとに -	[25E11]岸本紗也加 高校生による「環境」 学習・研究の実践と課 題 - 総合地球環境学 研究所の活動を事例 に -	[25E12]飯尾美行 “森づくり”と工業高 校における“環境教 育” - 地球にやさしい エンジニアの育成 -	総合討論
N206 F	現代 的課 題	[25F10]高橋正弘 ツシマヤマネコ交通 事故対策に係る環境 教育の課題 (その2)	[25F11]清田秀雄 ホットスポットとな った都会のビオトー プをいかに保全する か	[25F12]渡辺隆一 信州 ESD コンソーシ アムの成果と課題	総合討論

8月26日(日) 9:00~9:55

会場	テーマ	9:00~	9:15~	9:30~	9:45~
N201 A	地域 1	[26A01]水谷史門 森・川・海とそのつながりを基調とした地域づくり教育の可能性ーレジリエンスを評価する適応サイクルモデルからの検討ー	[26A02]中澤朋代 観光地域づくりにおけるエコツーリズムと地域住民のための環境教育	[26A03]永田裕寿 コミュニケーションを軸とした展示の可能性	総合討論
N202 B	プロジェクト学習	[26B01]伊藤通子 持続可能な社会を志向するPBL (Problem/Project-Based Learning) デザインの検討	[26B02]齊藤雅洋 プロジェクト学習(PBL)による地域に根ざした教育(PBE)の実践	[26B03]畑田彩 PBL 授業「サイエンス・コミュニケーション」の実践報告	総合討論
N203 C	奨励賞審査	[26C01]飯田貴也 「都市・生活型環境教育」推進拠点としての「環境学習施設」	[26C02]佐々木啓 白神山地デジタルセンターの利用実態と環境教育施設としての役割	[26C03]本間由佳 環境学習のフィールド授業実践をふまえた教材植物園の解説ツール開発ー環境分野とデザイン分野の連携による取り組みからー	[26C04]小松淳一 原発事故後の温泉街における地域づくりに関する研究ー福島県いわき湯本温泉街を事例としてー
N204 D	幼児 1	[26D01]元鍾彬 栽培活動を通じた「幼児期までに育てて欲しい姿」の体験的な学びについて	[26D02]仙田考 園庭環境における築山・斜面についての一考察	[26D03]櫃本真美代 保育施設と地域づくりの可能性について	総合討論
N205 E	防災	[26E01]桑原智美 災害を意識した中学生の野外炊事実践授業の効果測定	[26E02]秋吉博之 教員養成課程での防災教育の指導力育成に関する考察	[26E03]藤岡達也 「防災・環境・観光」の視点から自然・歴史景観を取り入れた琵琶湖・沖島の活用ー災害応援協定都市間の生徒交流を例にー	総合討論
N206 F	英語 1	※英語報告部会のプログラムについては、22頁をご参照ください。			



8月26日(日) 10:00~10:55

会場	テーマ	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~
N201 A	地域 2	[26A04]大島順子 世界自然遺産登録を 目指す地域に必要な 学びとは？	[26A05]増田直広 環境教育地域ミーテ ィングの意義と可能 性	[26A06]豊田光世 環境活動の順応的ガ バナンスに向けて一 協働と発展を育むツ ールの開発	総合討論
N202 B	学習 論1	[26B04]河野崇 問題解決的な学習に 基づく小学校生活科 の授業開発ー第2学 年単元「もっとなかよ しまちたんけん」の場 合ー	[26B05]石川国広 体験学習サイクルの 循環促進を意図した オリジナル・リフレク ションシートの活用 方法の検討~大学ス キー実習参加学生の 事例~	総合討論	
N203 C	奨励 賞審 査	[26C05]清水日香里 高等教育機関におけ る地域連携型環境教 育による教育的効果 に関する検証	[26C06]中田有哉 客観的な環境教育評 価システムのための 頭部視線方向測定機 器の開発		
N204 D	幼児 2	[26D04]森元真理 幼児教育施設におけ るムシを介した環境 教育プログラムの開 発	[26D05]黄恭 幼児向け食品ロス削 減活動プログラムの 構築手法に関する検 討~幼稚園における 食品ロス削減活動の 実態調査を中心とし て~	[26D06]早川礎子 科学絵本を活用した 保育内容・環境指導 法の教育方法	総合討論
N205 E	公害	[26E04]三木柚香 公害教育における学 びの質的転換と環境 の再定義	[26E05]川尻剛士 水俣病患者の「水俣病 を伝える」実践に関す る史的研究・再考	[26E06]安藤聡彦 終わらない公害;比較 環境教育研究のため に	総合討論
N206 F	英語 2	※英語報告部会のプログラムについては、22頁をご参照ください。			

8月26日(日) 11:00~11:55

会場	テーマ	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~
N201 A	社会教育	[26A07]古瀬浩史 ビジターセンター等における Open Data Kit を活用した自然情報の収集と集積	[26A08]佐藤清忠 社会人向け環境学習会「アイーナ夜学」とシステムの視点でみた未来の環境学習のあり方	[26A09]森朋子 サステナビリティ・トランジションに寄与する集団での環境行動の影響要因～再生可能エネルギーの地域導入活動を事例として～	総合討論
N202 B	学習論2	[26B07]大塚啓太 学習者の持つ身近な自然への視点と環境学習に関する学習観との関連	[26B08]金子俊明 環境学習における読解リテラシーとの関連に着目した実践	[26B09]小栗有子 環境教育研究における「身体性」論不在の問題	総合討論
N203 C	アクティブラーニング	[26C07]花田眞理子 大学生による幼稚園児対象の環境授業を通じたアクティブ・ラーニングの効果について	[26C08]布柴達男 一般教育科目としての環境教育のめざすもの～アクティブラーニング型授業から主体的なアクションへ～	総合討論	
N204 D	体験活動	[26D07]小西伴尚 中高の学校教育の中で継続して環境教育(干潟・森林等)を行うために	[26D08]矢動丸琴子 過去の自然・農業体験と体験者のストレス対処能力との関連	[26D09]本多孝 自然体験型環境教育の中での行動力育成についての実践について	総合討論
N205 E	原発	[26E07]大内成美 五感を用いた放射線教育の教材開発と教育実践～ふくしまエコ探検隊を対象として～	[26E08]鈴木一正 福島原発事故における保養プログラム：インタビュー調査を通して明らかになった7年目までの現状と課題	[26E09]楠美順理 判断力教育の枠組みの提案－原発の是非を題材として－	総合討論

8月26日(日) 13:00~13:55

会場	テーマ	13:00~	13:15~	13:30~	13:45~
N201 A	博物館	[26A10]林美帆 公害資料館ネットワーク共通展示パネル作成とSDGs	[26A11]後藤忍 原発事故の教訓を伝える施設の展示内容の特性把握と見学用ワークシートの作成～「コミュタン福島」を事例として～	[26A12]林浩二 持続可能な開発目標(SDGs)に向き合う科学系博物館—その社会貢献の行動方針：東京プロトコル—	総合討論
N202 B	水	[26B10]大木航央 小学校における河川防災教育のカリキュラムデザイン～官学連携と教材の複合的導入による検討	[26B11]中島茂範 SDGsの視点を取り入れた「海辺の環境学習」の実践と課題	[26B12]笠井利浩 離島における雨水生活体験を通じた水環境教育プログラムの実践	総合討論
N204 D	教材	[26D10]原敬一 ミツバチ教材のポテンシャル	[26D11]宮本康司 小学校理科単元で観察する環境学習教材としてのモンシロチョウ提供方法の開発	[26D12]中西一成 アユを指標にした森里川海の連環を考える環境学習プログラム	総合討論
N205 E	持続可能性	[26E10]松本朱実 持続可能性に向けた教育における教授・学習論	[26E11]關口寿也 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進～環境教育によって育む学力と環境保全意欲「2100年の天気予報(中高学年モデル)」～	[26E12]須田玲子 持続可能社会を創造するための教育未来創成教育の実践と展望	総合討論

## ポスター発表（☆は高校生の発表です。）

※高校生ポスター及び英語ポスター以外は、筆頭者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

### <北講義棟（N棟）101 教室>

- P01☆加藤薫子・坂尻巴奈・保坂百美・御園生真美：外来生物に対する小学生～高校生の意識高揚に関する研究Ⅱ
- P02☆山口朔矢・懸川怜・三川ゆうり・蟻川大智・岩脇修冨・松井孝夫：全国高校生自然環境サミット 20 年目に向けて～参加生徒が求めるもの～
- P03☆寺島香菜・鈴木ふみか・鎌田桃果・横山珠李・但野桃花・江畑暁月・岡本善文・藤原忍・林丈雄：新たな環境学習と地域ブランド創出の拠点となる体験型農場の整備・活用プロセス～ハマナスおよび果樹を主体とした南そうま福幸植樹会場をモデルとして～
- P04 吉澤樹理：アリ採集道具「吸虫管」を用いた生きものへの興味関心の向上
- P05 大石康彦：植物園展示木から木材資源にアプローチする環境教育プログラムー多摩森林科学園における事例からー
- P06 ペレス リス：ベネズエラでのイネの収量増加に関する研究ー日本の稲作技術の導入可能性ー
- P07 劉 洋：中国の水質汚染とその対策
- P08 鈴木享子：絶滅危惧種イトウのフィールドワークの実際ー調査の特徴と工夫ー
- P09 小河原孝生：生物多様性保全のための市民参加型生きもの調査 2017
- P10 森大樹：コーヒー粕抽出液がコマツナの生育に及ぼす影響-生育阻害の原因解明に向けて-
- P11 小笠原潤：Eco-D R Rによる地域に根ざした環境・防災教育～マングローブ林と海岸防災林の役割～
- P12 田子博：専門家による高度な環境教育支援が高校生の環境意識にもたらす影響評価（2）

### <北講義棟（N棟）102 教室>

- P13☆角野百千・小島慧音・青山優希・石井智也・小西伴尚：環境と思いを繋ぐー私たち中高生にできること 森 ver.ー
- P14☆小島慧音・嶋田凧・角野百千・渡辺晃史・石井智也・小西伴尚：環境と思いを繋ぐー私たち中高生にできること 海 ver.ー
- P15 菊池章仁：河川環境と関連付けた地域学習の意義～小学生への実践を踏まえて～
- P16 鈴木瑞穂：ホシスナヤ地域の砂を題材としたプログラム開発と実践
- P17 土川忠浩：地域の気候風土を志向する七十二候作成の試み
- P18 田邊幸歩：金目川水系上流域における水文化を含めた地域学習の試み
- P19 染谷侑：ごみ分別の啓発に関する実践授業の試み～横浜市・静岡市の小学校での実践
- P20 吉沢一家：湖沼生態系を素材としたカードゲームを用いた教育プログラムの開発
- P21 梶浦恭子：自然体験活動からの学び：対象（自然）物に向き合う場面において幼児と保育者が並列の位置で育むもの
- P22 開原安理：大学生による環境教育実践プログラムの企画・運営は当事者の意識にどのような影響を与えるか？
- P23 斎藤達也：地域に根差した草木染め資料の収集ー市民参加型調査イベントによる試みー
- P24 岩西哲：自然体験施設を利用した教員・保育士の提供プログラムに対する評価

### <北講義棟（N棟）103 教室>

- P25☆池田百花・落雅博・太田陽子・堀切友弥・萩原豪：Evacuation Procedure for People in Need of Care（原発事故発生時の要介護者の避難方法）
- P26☆青山優希・嶋田凧・宮田陽斗・石井智也・小西伴尚：環境と思いを繋ぐークラブで自主的な部員を育てるー
- P27 三ツ井聡美：気候変動に対する脆弱性を可視化する：国立公園の管理計画を事例に
- P28 齊藤由倫：3R 推進に関する市民アイデアの中から効果的な啓発施策を掘り起こす
- P29 佐久間貴士：ESD を通じた地域の学びにおける LMS 活用の可能性に関する考察

- P30 田中真由紀：香川県豊島における地域振興の展開方向と新たな問題
- P31 池下良介：日本における原子力発電の合理的なリスク対処に関する研究
- P32 野田健太：住宅の省エネルギー化の可能性についての研究
- P33 坂井宏光：地域環境保全のためのビオトープ活動と環境教育～福岡県新宮町人丸公園ビオトープを事例として～
- P34 小泉伸夫：サイエンスカフェ形式の食育イベントの食農ビジネスモデルへの展開
- P35 奥村博司：学んで守ろう僕らの森－中高大連携森林学習プロジェクト事業
- P36 桜井良：ロジックモデルとセオリー・オブ・チェンジを用いた環境教育プログラムの評価
- P37 阿河真人：「江東区民の森」を守る市民活動報告～「仙台堀川公園整備計画」と言う名の公園縮小計画に対する市民の抵抗運動～
- P38 川嶋直：敷居が低くて奥が深い「ポスターセッションをより深い対話の場に」（SDGsと環境教育最近の動向について）
- P39 多田満：研究者と市民の社会対話「環境カフェ」の実践
- P40 門田奈々：ビオトープを利用した自然体験学習の効果測定～発話記録からみる学びへのエンゲージメント～
- P41 藤盛礼恵：『源流親子留学』の事例から考える山村の学びと暮らし
- P42 松重摩耶：環境を考えるきっかけになる駆動質問に関する一考察
- P43 WEN-PING JIANG・SU-HUA LIN: Learning outcomes of soil environmental education course combined with core competencies of the 12-year Basic Education curricula: middle grade case studies
- P44 TZENG,CHU-CHIAN・SU-HUA LIN: In the Base of 12-year Basic Education to design Sustainable Development Education Course : a Food and Agriculture Education case of grades three and four in primary school

## 【若手会員の集い】「若手が考える 20 年後の環境教育」プロジェクト第 4 弾

### —環境教育の仕事に就いて—

#### 主催:若手組織化検討ワーキンググループ

**日時**：2018 年 8 月 24 日(金)16:00~17:50

**会場**：東京学芸大学 北講義棟 (N 棟) 105 教室

**対象者**：環境教育に携わっていきたいと考えている若手学会員(39 歳以下)

**申込方法**：事前申し込みは不要です。当日直接会場にお越しください。

#### 主なプログラム：

##### ■ 話題提供 「環境教育の仕事に就いて」

飯田貴也さん (NPO 法人新宿環境活動ネット) と垂水恵美子さん (公益社団法人日本環境教育フォーラム) をお招きし、環境教育の仕事や研究、今後の展望などについてお話しいただきます。

##### ■ えんたくんを使ったワークショップ

えんたくんを使い、環境教育の仕事について思いや感想を参加者同士で共有します。

#### お問い合わせ先：

日本環境教育学会 若手組織化検討ワーキンググループ (担当：加藤超大)

E-MAIL: kato\_tatsuhiko@jeef.or.jp

学会誌『環境教育』へ論文投稿をめざす方のための

# 論文の書き方セミナー

当学会誌『環境教育』への論文投稿をめざす方々を対象に、「論文の書き方セミナー」を開催します。冒頭では、編集委員会より、編集方針や最近の査読傾向・対策と、環境教育に関する実践報告や論文の書き方について説明します。続いて、若手組織化検討ワーキンググループより、「実践報告」および「研究論文」それぞれの執筆経験を踏まえて発表をします。

また、今回初めての試みとして、セミナーの後半では、論文執筆に関する個別相談の時間を設けます。小グループで登壇者を囲み、論文執筆に関わる様々なお悩みを気軽に相談できる場として活用していただければ幸いです。

若手会員のみならず、当学会誌への投稿を検討されている皆さまのご参加をお待ちしております。

日時：2018年8月24日(金)18時～20時

場所：東京学芸大学 北講義棟(N棟)105教室



## <プログラム>

- 講演：藤岡 達也 氏（日本環境教育学会編集委員長・滋賀大学）  
「学会誌『環境教育』の査読傾向と対策」
- 講演：比屋根 哲 氏（日本環境教育学会編集委員・岩手大学）  
「わかりやすい論文・実践報告の執筆」
- 講演：田開 寛太郎 氏（松本大学）  
「実践報告執筆の経験から」
- 対談：桜井 良 氏（立命館大学）× 中村 和彦 氏（東京大学）  
「研究論文の執筆のあれこれ」
- 小グループでの相談会

主催：日本環境教育学会 若手組織化検討ワーキンググループ、編集委員会

問い合わせ：日本環境教育学会 若手組織化検討ワーキンググループ  
早川 有香（東京工業大学） E-mail:haya@valdes.titech.ac.jp

## 英語報告会 English Session

Date: August 26, 2018 Time: 9:00-11:00 Language: English

Venue: Room 206, North Lecture Tower (N棟 206 教室), Tokyo Gakugei University

Sunday August 26	9:00-	9:15-	9:30-	9:45-
Session 1	<p><b>Jing Wu</b> Lessons Learned from the Best Practices of Eco-Schools Program in China</p>	<p><b>Yu-Hui,Cheng</b> The Study on the Correlations between the Cognition on Food and Agriculture Education with the Breakfast Behavior of the Senior High School Students in Taiwan and Japan</p>	<p><b>Ching-Kai Lin</b> Integrating core competencies under12-year Basic Education into Environmental Education Curriculum: Study on the learning outcome for third and fourth graders</p>	<p><b>Lyu hag lyeol</b> An Analysis on Environmental Education in Yesan Oriental Stork Village</p>
Sunday August 26	10:00-	10:15-	10:30-	10:45-
Session 2		<p><b>David Allen</b> Influence of Mean Global Temperature on Climate-Related Disaster Frequency</p>	<p><b>Sun-Kyung LEE</b> Exploring Strategies for Integrating Education for Sustainable Development and Convergence Education in Schools</p>	<p><b>Yeon-A Son</b> Comparative Analysis of Environment &amp; ESD Related Curricula of the 2015 Revised Curriculum in Korea: Focusing on the Curricula of Environment, Moral, Social Studies, and Science</p>

日本環境教育学会 第29回年次大会 特別企画

The Special Project, The 29th Annual Meeting of  
The Japanese Society of Environmental Education



国際交流会



International Workshop



日時： 2018年8月26日（日）12～14時

**DATE: August 26, 2018 (Sunday) 12-14 pm**

場所： 東京学芸大学 北講義棟（N棟） 206教室

**VENUE: Room 206 North Lecture Tower, Tokyo Gakugei University**

内容： 各国の環境教育、キープ協会による国際共同  
教育実践の取組紹介、ワークショップ他  
ランチやお茶菓子を持ち寄り、各国からの  
参加者との交流を深めます。

**LET'S Chatting with participants**

**TALK! from various places, over lunch & drinks :**

**Introduction of environmental education from overseas  
and challenge from KEEP Associations & Discussion in  
small groups**

Plz bring  
your own  
lunch.

- ・ お茶はこちらで準備します。紙コップを用意して  
いますが、マイカップがある方はご持参ください。

While paper cups are available, please bring your own  
cup if you can to reduce waste.



- ・ 進行は、日本語と英語を使います。  
Language: English and Japanese  
簡単な逐次通訳があります。  
簡単な通訳ができる国際交流委員と  
サポートスタッフがいます。  
英語が話せなくても、  
お気軽にご参加ください。



みなさんの取  
り組みをご紹  
介ください！

ご自身が紹介されたい環境教育の取り組みについての  
写真や資料をご持参いただければ幸いです。



日本環境教育学会と日本環境教育フォーラムの共催企画  
「教室で使えるアクティブラーニング・ワークショップ」

2017年8月24日（金曜日）10:00～15:00

アクティブラーニングに魂(たましい)と技(わざ)を吹き込む  
—環境教育で育まれてきた学習者中心の場づくり—

場所：東京学芸大学 北講義棟（N棟）N304 教室

参加費：5,000 円 定員：60 名

主催：一般社団法人日本環境教育学会

共催：公益社団法人日本環境教育フォーラム

プログラム

1. 基調メッセージ：『学校教育 3.0』時代に求められるアクティブラーニングとは
2. 魂と技を吹き込む環境教育ワークショップ  
    パート1：「KP 法」プレゼンテーション  
    パート2：「えんたくん」ミーティング
3. 学習者中心の場をつくるファシリテーションのスキル・考え方とは

主な講師紹介

川嶋 直（公益社団法人日本環境教育フォーラム理事長）

1980 年代半ばに財団法人キープ協会で環境教育事業部を組織内起業。以降 30 年間に渡り、参加型・自然体験型環境教育プログラムの開発と人材育成を行う。著書に『就職先は森の中』、『KP 法～シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』、『えんたくん革命』（中野民夫と共著）等。

中野 民夫（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

博報堂在職中からワークショップ、ファシリテーション、参加型の場づくり、エコロジーとスピリチュアリティ、マインドフルネスを手掛け、現在は大学の大人数教室での参加型授業を实践中。著書に『ワークショップ』『ファシリテーション革命』『学び合う場の作り方』（共に岩波書店）等。

諏訪 哲郎（学習院大学教育学科教授、日本環境教育学会会長）

2000 年以来、日中韓環境教育協力会代表として、主に中国の教員を対象に参加体験型学習の研修会を実施。大学の教職課程の授業でも参加型授業を实践中。

編著書に『持続可能性の教育』、『学校教育 3.0』。日本環境教育学会編『環境教育辞典』、『アクティブ・ラーニングと環境教育』の編集責任者。

※申し込み方法

日本環境教育フォーラムのウェブサイトより

<http://www.jeef.or.jp/2018/06/21841/>（QR コードも利用可→）



教員セミナー 2017年8月25日(土曜日) 9:00~13:30

## テーマ：持続可能な開発目標 (SDGs) を教室に！

会場：東京学芸大学 北講義棟 (N棟) N304 教室

参加費無料 (資料代として1000円を徴収予定)

全体進行：高田研 (学会企画委員長、都留文科大学教授)

申込：「第10回環境教育教員セミナー参加申し込み」とタイトルに明記し、  
teacher2018@jsfee.jp まで、お名前とご所属 (学校名等) を添えてメールで申し込み  
ください。

### 《プログラム》

#### 1. プロローグ：新学習指導要領と持続可能な開発目標 (SDGs) のための教育 (9:00~9:40)

いま、持続可能な開発目標 (SDGs) がブレイク中です。2015年の国連持続可能な開発サミットで、2030年までに取り組むべき目標として採択されたSDGs (Sustainable Development Goals) は、産業界でも目標達成に協力する姿勢が鮮明になってきています。多くの企業が「CSR (企業の社会的責任) レポート」でSDGsに言及し始めており、日本経済団体連合会も「企業行動憲章」を2017年11月に改訂してSDGsの達成への協力姿勢を示しています。これからは、「持続可能な社会の創り手」を育むことを掲げた新学習指導要領に向けて、学校もSDGsに正面から取り組むことが求められています。

話題提供者：小玉敏也 (麻布大学教授)

#### 2. 小中学生によるSDGsカードゲーム (9:45~11:45)

(ユネスコスクール・ネットワークとの共催企画)

17のゴールを達成するために、チームで協力して他チームに交渉しゴールを目指すというカードゲームを小中学生が実施します。NPOが多方面で展開しているものですが、企業や行政、学校でも取り組まれ始めています。環境問題が多様な要素を内包していることに気づき、SDGsへの取り組みへの意欲を高めることができます。カードゲーム後の振り返りが、実はこのアクティビティの柱です。中学生のリードで小学生が話し合い、意見を高め、意見を高める過程で、2030年に大人になる自分事として、温暖化やその他のゴールについての取り組み意識や実践について思考し発言します。2030年の環境問題とその他の社会問題の真ただ中に入る児童生徒の変容を参加者に見ていただくこととなります。児童生徒が変容します。

参加校 (予定)：大田区立大森第六中学校、杉並区立西田小学校、  
多摩市立連光寺小学校、多摩市立多摩第一小学校

協力：辰野まどかさん (一般社団法人GiFT (グローバル教育推進プロジェクト))

#### 3. 探究型授業の創り方 (12:30~13:30)

本学会の学校環境教育プロジェクトが作成中の「環境学習のラーニング・デザインーアクティブラーニングで学ぶ持続可能な社会づくりー」を用いて、授業を探究型にする【ウェビング】【タイムライン】【ジグソー法】【フォトランゲージ】【ディベート】【ワールドカフェ】【タウンウォッチング】【ロールプレイング】【ランキング】【ディスカッション】【KP法プレゼンテーション】【Project Based Learning】などの手法を紹介し、そのうちの2つほどを実践します。

ファシリテーター：水山光春 (学会副会長、青山学院大学教授)

# 一般社団法人 日本環境教育学会第29回年次大会 実行委員会名簿

(○：各部門のリーダー)

大会実行委員長

原子栄一郎 (東京学芸大学)

大会事務局長

小柳知代 (東京学芸大学)

## 【会計】

○秦範子 (都留文科大学) ・ 浜泰一 (東京大学)

## 【要旨集】

○木村学 (文京学院大学) ・ 深須祐子 (板橋区立エコポリスセンター)

## 【広報・懇親会】

○神村佑 (東京学芸大学) ・ 酒井玲奈 (NPO 法人保育力研究所) ・ 本間由佳 (明星大学)

## 【企画】

○樋口利彦 (東京学芸大学) ・ 加藤超大 (日本環境教育フォーラム)

## 【会場・施設】

○小柳知代 (東京学芸大学) ・ 吉富友恭 (東京学芸大学) ・ 大塚啓太 (東京大学大学院)

## 【エクスカージョン】

○吉富友恭 (東京学芸大学) ・ 神村佑 (東京学芸大学) ・ 藤盛礼恵 (東京学芸大学)

## 【メッセ・広告】

○吉富友恭 (東京学芸大学) ・ 丸山瑛奈 (国立科学博物館) ・ 草刈清人 (ミュージアムプランナー) ・ 鈴木享子 (東京学芸大学)

## 【国際】

○田開寛太郎 (松本大学) ・ 高橋宏之 (千葉市動物公園) ・ 加藤超大 (日本環境教育フォーラム)

**一般社団法人 日本環境教育学会第 29 回年次大会（東京）**

（一社）日本環境教育学会第 29 回年次大会実行委員会事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 環境教育研究センター

Tel: 042-329-7665 FAX: 042-329-7669

E-mail: [gakugei2018@jsfee.jp](mailto:gakugei2018@jsfee.jp)

大会ウェブサイト: <http://www.jsfee.jp/members/meeting/325>